

**令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象:3~5歳児)**

陽だまいの丘保育園

テーマ

園庭

設定理由

- 運動遊び以外でも、園庭で楽しめる活動を増やし、戸外での活動をより充実させるため。

活動のねらい

- ビオトープを設置し、都市の中にある園庭でも生き物や植物に触れる機会を増やすことで、園庭での活動を充実させる。
- 子どもたち自らビオトープを立ち上げ、遊ぶ場所を主体的に作り出す経験を味わう。

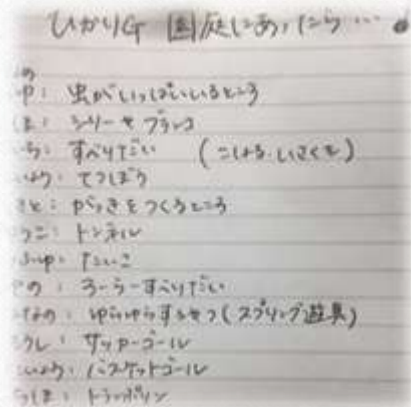
対象クラス

63名（内訳：3歳児/22名 4歳児/21名 5歳児/20名）

スケジュール

令和7年4月～令和8年3月

子どもたちの声を聴く



- ・園庭改革にあたり、サークルタイムを通じて、子どもたちにどんなことができる園庭だとワクワクするかを尋ねると、遊具を増やしたいという声や、生き物や植物に触れることのできる園庭にしたいという声が挙がる。
- ・室内で飼育している虫やカエルなど生き物への関心が高い子どもたちの姿があったので、「ビオトープ」の存在を伝えると、子どもたちが目を輝かせる様子が見られた。

環境のために準備した
素材や道具

- ・飼育容器、ビオトープ

子どもたちの育ち

- ・サークルタイムを通じて、自分の考えを言葉にしたり、友だちに考えを聞いてもらうことの嬉しさを知る。
- ・自分たちの生活する場所を、より良いものにするためにはどうすれば良いか考えたり設計したりすることで、思考力が育まれる。



- ビオトープの外装が園庭に設置されると、“どんな生き物を入れようか”と考えを巡らせながら、空の容器を覗き込む姿があり、新しい園庭の環境へ期待感を高める。
- 生き物への関心が深い子どもたちにビオトープの仕組みを伝えると、バクテリアの存在や自然の循環サイクルなど、これまでは知らなかったことに、驚いたり興味を示したりする。
- ビオトープに必要な水草を子どもたちと選び買い物に行くことを決めると、「この草にはカエルが乗って楽しそう」「メダカが卵を産みやすそうだね」と、想像を膨らませていた。

環境のために準備した
素材や道具

- 水草や生き物の画像

子どもたちの育ち

- 自然の循環サイクルなどビオトープのシステムを知り、生き物への関心を深める。
- 水草を選び実際に買いに行くなど、自分たちで考えたことを形にする経験を通じて、主体的に参画する力が身に付く。



- 友だちと協力しながらビオトープを作り上げていく中で、「餌はいつあげようか」「汚れないようにしないとね」など、自分たちがここを管理していくという意識が芽生える。
- バクテリアを入れると「メダカのうんちを食べて水が綺麗になるんだよね」と自然の循環を楽しみにする。
- 完成したビオトープにメダカを入れると、鼻が触れそうになる程覗き込みながら、泳ぐ姿を観察していた。

環境のために準備した
素材や道具

- バクテリア、水草、赤玉土、メダカ

子どもたちの育ち

- 友だちと一緒に、ビオトープを立ち上げていくことで、協同性が育まれる。
- 水草やメダカなど、これまで園庭になかった自然物に触れたり観察したりすることで、植物や生物への関心が高まる。

全体の振り返り

- 自分たちでどんな園庭にしたいかを考えることから始めたことで、ビオトープの立ち上げにも、主体的に取り組み、意見を言ったり友だちと協力したりするなど、意欲的な様子が見られた。
- バクテリアや循環のシステムなど、目には見えない自然の働きにも興味を持ち、生き物への関心が高まった。
- メダカを入れた後も、他にもどんな生き物を観察できるかなど子どもたちからも声上がり、ビオトープを通じて園庭での活動の幅が広がることを感じた。

